

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530825

研究課題名(和文) 高次リテラシーとしての批判的読解力のアセスメントと教育実践

研究課題名(英文) Assessment and educational practice of critical reading as a higher-order literacy

研究代表者

沖林 洋平 (Okibayashi, Yohei)

山口大学・教育学部・准教授

研究者番号：20403595

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、高次リテラシーとしての批判的読解力のアセスメントと教育プログラムの開発を目的とする。本研究は3年計画で実施する。本研究の成果として、高次リテラシーとしての批判的読解力の測定ツールに関する基礎資料の収集を行うことができた。また、主として大学における高次リテラシー育成の教育プログラムの開発に関する予備的研究を進めることができた。本研究課題の成果は、アクティブラーニングなど、学習者参加型の授業開発に関する基礎資料を提供する点で、大学教育をはじめとする教育課程に有意義な知見を提供するものであるといえる。

研究成果の概要(英文)：The present study, it is aimed at the development of assessment and education program of critical reading comprehension as a higher-order literacy. This study will be conducted in a three-year plan. As a result of this study, it was possible to carry out the collection of basic data on the measurement tool of critical reading comprehension as a higher-order literacy. In addition, it was possible mainly to promote the preliminary research on the development of education programs of higher-order literacy development in university. The results of this study challenge, such as active learning, in that it provides the basic data about the teaching and development of learner participation, it can be said that is to provide a meaningful knowledge to the curriculum, including university education.

研究分野：教育心理学

キーワード：高次リテラシー 批判的思考態度 批判的読解力 大学教育 潜在的態度

1. 研究開始当初の背景

本研究では、高次リテラシーの一機能として、批判的読解(Critical reading)のアセスメントと教育プログラムの開発に注目する。その理由としては、次の3点が挙げられる。まず、1点目は、AHELO(OECD 高等教育における学習成果の評価)の評価規準の1つとして批判的思考力が組み込まれていることである。2点目は、与えられた情報と自らの既有知識を関連づけることによって、信念バイアスに影響されない判断を行うという、テキストからの学習(Learning from text)という意味での批判的読解力の育成の重要性が指摘されるようになってきていることである。3点目は、これらを統合するディスカッション環境としての同期的・非同期的ディスカッション環境を提供することができるという技術的蓄積である。以上の研究の動向を踏まえて、本研究課題では、批判的読解力の育成プログラムの開発に着目することを、中心的課題とした。

2. 研究の目的

沖林は、若手研究Bで初年次教育における、専門導入教育としての批判的思考教育プログラムの開発(2007-2008)や、学部専門教育課程においてインターネット環境による非同期的ディスカッションと、対面環境による同期的ディスカッション環境を複合させることによる、批判的読解力の育成プログラムの開発(2009-2011)を進めてきた。また、楠見・沖林他は科研基盤B「批判的思考の認知的基盤と教育実践」で批判的思考に関する認知的基盤の解明と教育プログラムの開発を行った(2006-2009)。一連の研究によって、学部教育を通じた批判的思考力の育成プログラム開発に関する基礎資料を得ることができた。しかし、高次リテラシーの中核的機能である批判的読解力については、アセスメントツールの開発は沖林(2005)に留まっており、十分に一般化可能な知見は蓄積されていない。そこで、批判的読解力のアセスメントツールおよび教育プログラムの開発に焦点化した研究を着想した。

第一に、先行研究における批判的思考の認知的構成要素に関する基礎的研究によって得られた知見を踏まえて高次リテラシーとしての批判的読解のアセスメントツールの開発を目指すことである。第二に、大学および大学院教育での批判的読解力育成を目的とした教育プログラムの開発である。

本研究の学術的特色は、読解の認知過程、教育実践、アセスメントを専門とする研究者の共同プロジェクトである点である。また、独創的な点としては、アセスメントツールと教育プログラムの開発を同時並行的実施により、教育プログラム施行に対応したアセスメントツールを開発することができることである。本研究で予想される結果としては、3年間の縦断及び横断研究による、高次リテ

ラシーとしての批判的読解に関する認知モデル構築することと、教育プログラムを提供できる点にあり、これまでの先行研究では明らかにされていなかった知見を提供でき、その学術的意義は大きい。

3. 研究の方法

本研究は3年間の縦断・横断的研究により、批判的読解力のアセスメントツールの開発、および、大学における批判的読解力育成を目的とした教育プログラムの開発を目指すものである。本研究は、基本的には先行研究の知見に基づきながらも本研究のために開発した標準ツールやデバイスを用いた開発研究という特徴を持つ。すなわち、本研究の展開は、教育心理学的知見に基づくアセスメントツールの開発という基礎的研究と、プログラム・ロジックモデルに基づく教育プログラムの開発と評価という実践的研究の2つの側面により構成される。また、各年次で2-3大学でプログラムを並行的に実施することにより、ツールや教育プログラムの信頼性を高める。

また、本研究は、山口大学教育学部の教育心理学コースにおける2年時から4年時までの縦断的研究と、各学年別の横断研究の3回の繰り返しという2つの研究を軸として展開する。

4. 研究成果

本研究の成果として、批判的読解力の測定ツールの開発に関わる基礎資料を得ることができた。また、主として大学における、批判的思考態度ならびに批判的読解力育成のための教育プログラムの開発に関する予備的研究を進めることができた。本研究の成果は、大学等において今後より重要度が高まるアクティブラーニングなどの教育プログラムの開発に有益な知見を提供できるものと考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 13件)

1. 沖林洋平・高橋雅子 (2015) 音楽授業における集団のあり方に関する研究 山口大学教育学部学部・附属学校実践研究紀要 14 79-86. 査読無
2. 山崎 茜, 沖林洋平, 石井 眞治, 鈴木 由美子, 森川 敦子 (2015) 平和教育が平和構築意識に及ぼす影響に関する研究 学習開発学研究 8 41-44. 査読有
3. 沖林洋平, 田中 理絵, 鷹岡 亮・岡村 吉永(2014) オンラインとオンタイムの情報記録方法の違いが教員養成教育に及ぼす影響 電子情報通信学会技術研究報告 = IEICE technical

- report : 信学技報 113(462), 29-31
査読無
4. 沖林洋平・田中理絵・鷹岡亮・岡村吉永 (2014) 実践的学びの振り返り活動を支援する教材開発に関する研究教育システム情報学会研究報告 = JSiSE research report 28(7), 9-14 査読無
 5. 大石 英史, 小杉 考司, 沖林 洋平 (2013) 山口県における不登校問題への包括的アプローチ研究実践報告 山口大学大学院教育学研究科附属臨床心理センター紀要 4, 3-5 査読無
 6. 藤田理恵・沖林洋平 (2013) 単純接触における刺激の違いが潜在的認知に及ぼす影響 : GNAT を用いて 研究論叢. 第3部, 芸術・体育・教育・心理 63, 41-46 査読無
 7. 沖林洋平・藤田理恵 (2013) 潜在的態度に関する近年の研究の諸理論 研究論叢. 第3部, 芸術・体育・教育・心理 63, 35-39 査読無
 8. 沖林洋平 (2013) 教育学部生における教員志望意識と批判的思考態度の関係 研究論叢. 第3部, 芸術・体育・教育・心理 63, 31-34 査読無
 9. 富田 英司, 沖林 洋平, 田村 恭久 (2012) Moodle 上の活動と学習成績の関係 愛媛大学教育学部紀要 59, 91-97 査読無
 10. 沖林洋平・藤木大介・楠見孝 (2012) 特集「批判的思考」の編集にあたって 認知科学 = Cognitive studies : bulletin of the Japanese Cognitive Science Society 19(1), 3-8 査読有
 11. 藤田理恵・沖林洋平 (2012) 接近・回避の身体的動作の反復が潜在的認知の変化に及ぼす影響 : 潜在連合テストによる測定 研究論叢. 第3部, 芸術・体育・教育・心理 62, 87-94 査読無
 12. 大下知世・沖林洋平 (2012) 自己スキーマと対人印象形成との関連について : 相互独立的-相互協調的自己観の観点から 研究論叢. 第3部, 芸術・体育・教育・心理 62, 81-86 査読無
 13. 鷹岡 亮, 沖林 洋平, 霜川 正幸, 田中 理絵, 源田 智子, 久保田 尚, 岡村 吉永 (2012) 学生の自発的研修活動に関する基礎的調査(2) (2012) 教育実践総合センター研究紀要 -(33), 69-76 査読無

〔学会発表〕(計 12件)

1. 沖林洋平・山田洋平・米沢崇・栗原慎二 (2014) 包括的生徒指導としての協同学習が学校適応感に及ぼす影響(3) 2014年11月8日 日本教育心理学会第56回総会発表論文集 兵庫県神戸市 神戸国際

会議場

2. 沖林洋平 (2014) 高等教育におけるリテラシーの開発 日本教育心理学会第58回発表論文集(自主企画シンポジウム) 2014年11月8日 兵庫県神戸市神戸国際会議場
3. 沖林洋平 (2014) 事前情報がリスク語 IAT に対して及ぼす影響 日本心理学会第78回大会発表論文集, 2014年9月12日 京都府京都市上京区 同志社大学今出川キャンパス
4. 藤木大介・沖林洋平 (2014) 批判的思考態度と文章理解における道徳的読み 日本心理学会第78回大会発表論文集 2014年9月12日 京都府京都市 同志社大学今出川キャンパス
5. 沖林洋平・藤木大介 (2013) 協同的読解が批判的読解に及ぼす影響 中国四国心理学会 46 63 2013年11月17日 山口県 山口市 山口大学教育学部
6. 沖林洋平 (2013) 大学生に対するリスク学習が批判的思考に及ぼす影響 日本心理学会 第77回大会発表論文集, 1127 2013年9月20日 北海道札幌市 札幌コンベンションセンター
7. 田島 充士, 沖林 洋平, 山崎 史郎, 小野瀬 雅人 (2013) JG08 学習指導研究と臨床支援研究間の交流可能性をさぐる 日本教育心理学会総会発表論文集 (55), S170-S171 2013年8月19日 東京都千代田区法政大学市ヶ谷キャンパス
8. 沖林 洋平, 藤木 大介, 山口 剛, 池田 まさみ, 篠ヶ谷 圭太, 豊田 弘司 (2013) JE09 高次リテラシーの発達に関する動機づけや感情の影響 日本教育心理学会総会発表論文集 (55), S130-S131 2013年8月18日 東京都千代田区法政大学市ヶ谷キャンパス
9. 沖林洋平・山田洋平・米沢崇・栗原慎二 (2013) 包括的生徒指導としての協同学習が学校適応感に及ぼす影響(2) 日本教育心理学会総会発表論文集 (55), 39 2013年8月17日 東京都千代田区法政大学市ヶ谷キャンパス
10. 沖林洋平・山田洋平・米沢崇・栗原慎二 (2012) 包括的生徒指導としての協同学習が学校適応感に及ぼす影響 日本教育心理学会第55回総会発表論文集 2012年11月25日 沖縄県中頭郡 琉球大学千原キャンパス
11. 藤田理恵・沖林洋平 (2012) 接近・回避の身体的動作の反復が潜在的態度に及ぼす影響 日本心理学会第77回発表論文集 2012年9月13日 神奈川県川崎市 専修大学人間科学部
12. 沖林洋平 (2012) 批判的思考と、幸福感、ハーディネスの関連の世代間比較 日本心理学会第77回発表論文集 2012年9月11日 神奈川県川崎市 専修大学人間科学部

〔図書〕(計 4 件)

1. 沖林洋平 (2015) 大学教養教育 楠見孝・道田泰司(編) 批判的思考 「21世紀を生きぬくリテラシーの基盤」 pp.160-163. 新曜社
2. 沖林洋平 (2015) 21世紀市民リテラシーとしての批判的読解力 森敏昭(監修) 藤江康彦・白川佳子・清水益治(編集) 21世紀の学びを創る pp.140-147. 北大路書房.
3. 沖林洋平 (2014) 発達 田邊敏明・大石英史・沖林洋平・小野史典・押江隆 「明日から教壇に立つ人のための教育心理・教育相談」 pp.15-28. 北大路書房
4. 沖林洋平 (2014) 学習 田邊敏明・大石英史・沖林洋平・小野史典・押江隆 「明日から教壇に立つ人のための教育心理・教育相談」 pp.47-64. 北大路書房

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

沖林 洋平 (Okibayashi, Yohei)
山口大学教育学部, 准教授
研究者番号: 20403595

(2) 研究分担者

小杉 考司 (Kosugi, Koji)
山口大学教育学部, 准教授
研究者番号: 60452629

犬塚 美輪 (Inuduka, Miwa)
大正大学人間学部, 准教授
研究者番号: 50572880

藤木 大介 (Fujiki, Daisuke)
愛知教育大学教育学部, 准教授
研究者番号: 60403599

(3) 連携研究者

楠見 孝 (Kusumi, Takashi)
京都大学大学院教育学研究科, 教授
研究者番号: 70195444